

28 番の歌 エホバの友となる

エホバからの素晴らしい招待

「私の天幕が彼らと共にあり、私は彼らの神とな[る]」。エゼキエル 37:27 私の天幕(*住まい/家)が彼らと共に(*の上に)あり、私は彼らの神となり、彼らは私の民となる

ポイント：エホバは私たちをご自分の天幕に招き、大切にもてなしてくださっています。そのことへの感謝を深めましょう。

1-2. エホバはご自分に仕える人たちにどんな招待をしていますか。

あなたにとってエホバはどんな存在ですか。「エホバは私の神、お父さん、そして友達です」と答えるかもしれません。もっとほかのイメージもあることでしょう。では、エホバが私たちを家に招いてくれていることについて考えたことはありますか。

2 ダビデ王は、エホバとエホバに仕える人の関係を、家に招く人と招かれる人の関係に例えました。こう言っています。「エホバ、あなたの天幕にとどまるのは誰ですか。あなたの聖なる山に住むのは誰ですか」。(詩 15:1 エホバ、あなたの天幕にとどまる(*でもてなされる)のは誰ですか。あなたの聖なる山に住むのは誰ですか) この言葉から、エホバが私たちを友として天幕に招いてくれていることが分かります。素晴らしい招待だと思いませんか。

エホバはご自分の天幕に私たちを招いている

3. エホバの天幕に最初に招かれたのは誰ですか。エホバとイエスはお互いのことをどう思っていましたか。

3 全てのものが創造される前、存在していたのはエホバだけでした。でも、ある時点でエホバはご自分の子イエスを創造し、喜んでご自分の天幕に招き入れました。聖書には、エホバはイエスに「深い愛情を抱[いていた]」と書かれています。招かれたイエスも「いつも神の前で喜ん」でいました。(格 8:30 その時、私は優れた働き手として神のそばにいた。私は毎日、神が深い愛情を抱く存在で、いつも神の前で喜んだ)

4. 後に誰がエホバの天幕に招かれましたか。

4 その後、エホバは天使たちを創造し、ご自分の天幕に招きました。聖書によると、「神の子たち」と呼ばれる天使たちはエホバと一緒にいて、とても喜びを感じています。(ヨブ 38:7 その時、明けの星が共に喜びの叫び声を上げ、神の子たち(c*へ語慣用句。神の天使たちを指す)が皆、称賛の叫び声を上げ始めた。ダニ 7:10 その方の前から火が川のように流れ出ている。その方に仕えている者は千の千倍、その方の前に立っている者は1万の1万倍いた。法廷が開廷し、書物が開かれた) 最初のうち、エホバと友になれたのは天に住んでいる者だけでした。その後、エホバは人間を造り、地球にいる人間もご自分の天幕に招きました。例えば、エノク、ノア、アブラハム、ヨブなどです。このように神に心から仕えた人たちは、「真の神と共に歩んだ人や神の友」と表現されています。(創 5:24 エノクは真の神と共に歩

み続けた後、いなくなった。神が彼を取ったからである。[:6:9](#) 以下はノアについての記録である。ノアは正しい人で、当時(*同世代)の人々とは異なり、非の打ちどころがない人だった。ノアは真の神と共に歩んだ。[ヨブ 29:4](#) 当時、私はまだ元気で、自分の天幕で神が私と親しくしてくださっているのを感じていた。[イザ 41:8](#) 「しかし、イスラエルよ、あなたは私に仕える者であり、ヤコブよ、私が選んだあなたは、私の友アブラハムの子孫である」

5. [エゼキエル 37 章 26, 27 節](#)の預言からどんなことが分かりますか。

5 エホバは長い間ずっとご自分の天幕に友を招いてきました。（[エゼキエル 37:26, 27](#) 私は彼らと平和の契約を結ぶ。それは永遠に続く契約となる。私は彼らを定住させ、増やし、永遠に彼らの中に私の聖なる所を置く。27 私の天幕(*住まい/家)が彼らと共に(*の上に)あり、私は彼らの神となり、彼らは私の民となるを読む。）エゼキエルの預言から、ご自分に仕える人たちと親しくなりたいというエホバの温かい気持ちが分かります。エホバは、その人たちと「平和の契約」を結ぶと約束しています。この預言は、天に行く希望を持つ人たちと地球で生きる希望を持つ人たちが「1つの群れ」になってエホバの天幕に集まる時のことを言っています。（[ヨハ 10:16](#) 私にはほかの羊がいますが、この囲いのものではありません。私はその羊たちも連れてこなければならず、それらも私の声を聞きます。こうして、1つの群れ、1人の羊飼いとなります）これは、今実現しています。

エホバは私たちがどこにいても大切にしてくださる

6. 私たちはどのようにしてエホバの天幕に招き入れられましたか。エホバの天幕はどこか特定の場所にあるものですか。

6 聖書時代、天幕は人が休んだり、雨風をしのいだりできる場所でした。そこに招かれる人はたいてい大切にもてなされました。私たちは献身した時、いわばエホバの天幕に迎え入れていただきました。（[詩 61:4](#) 私は永遠にあなたの天幕にとどまり(*でもてなされ)、あなたの翼の下に避難する）そして、エホバとの絆を強めるのに必要なものを豊かに与えられています。また、エホバの天幕に同じように招き入れられた人たちの友情も楽しんでいます。どんな場所にいるとしてもその天幕に入ることができます。これまで、外国に旅行したり特別大会に出席したりしたことがあるかもしれません。そういう時に、エホバの天幕に迎え入れられて幸せを感じている人たちと会ったことでしょう。どこにいても、エホバに忠実に仕えているなら、エホバの天幕の中にいることになります。（[啓 21:3](#) その時、王座から大きな声がした。「見なさい！ 神の天幕が人々と共にあり、神は人々と共に住み、人々は神の民となります。神が人々と共にいるようになるのです」）

7. すでに亡くなった忠実な人たちもエホバの天幕にとどまっている、といえるのはどうしてですか。（写真も参照。）

7 すでに亡くなった忠実な人たちはどうでしょうか。その人たちもエホバの天幕にとどまっているといえます。どうしてですか。その人たちはエホバの記憶の中では生きているからです。イエスはこう言いました。「死者が生き返ることに关しては、モーセも、いばらの木に関する記述の中で明らかにしました。その際エホバを『アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神』と呼んでいます。この方は死んだ人の神ではなく、生きている人の神です。彼らは皆、神にとっては生きているのです」。（[ルカ 20:37, 38](#) 死者が生き返ることに关しては、モーセも、いばらの木に関する記述の中で明らかにしました。その際エホバを『アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神』と呼んでいます。38 この方は死んだ人の神ではなく、生きている人の神です。彼らは皆、神にとっては生きているのです）



亡くなった忠実な人たちもエホバの天幕にとどまっているといえる。(7節を参照。)

エホバがしてくれることと私たちがすべきこと

8. エホバはご自分の天幕の中にいる人にどんなことをしてくれますか。

8 文字通りの天幕の中にいれば、休んだり雨風をしのいだりできるのと同じように、エホバの天幕の中にいれば、エホバとの絆を傷つけようとしたり希望を失わせようとしたりするものから守られます。エホバのそばにとどまっている限り、サタンの攻撃によっていつまでも苦しめられるということはありません。(詩 31:23 エホバを愛せ、神に尽くす(*を揺るぎなく支持する/から離れない)全ての人たち。エホバは忠実な人を保護する。しかし、傲慢な人を厳しく処罰する。ヨハ 3:8 罪を犯し続ける人は悪魔から出ています。悪魔は初めから罪を犯してきたからです。神の子が現れたのは、悪魔の行いを終わらせる(*滅ぼす)ためです) 新しい世界でも、エホバはご自分の友を守ります。エホバとの絆を持ち続けられるよう助け、死さえも取り除いてくださいます。(啓 21:4 神は人々の目から全ての涙を拭い去ります。もはや死はなくなり、悲しみも嘆きも苦痛もなくなります。以前のものは過ぎ去ったのです)

9. エホバはご自分の天幕にいる人たちにどんなことを望んでいますか。

9 エホバの天幕に招かれ、エホバとずっと続く友情を持てるというのは、本当に光栄なことです。エホバの天幕にとどまりたいと思うなら、どんなことをする必要がありますか。誰かの家に招かれた場合、その家の人の失礼にならないようにしたいと思うでしょう。もし家の人が家に入る前に靴を脱いでほしいと思っているなら、喜んでそうするはずです。同じように、エホバの天幕にとどまりたいなら、エホバがどんなことを望んでいるかをぜひ知りたいと思うことでしょう。私たちはエホバを愛しているので、できる限りのことをして「全ての点で神に喜ばれ」る人になろうとします。(コロ 1:10 エホバ(*)に仕える人にふさわしい歩み方をし、全ての点で神に喜ばれますように。また、あらゆる善いことを行って実を結び、神についての正確な知識をますます得られますように) エホバは私たちの友達ですが、尊敬すべき神であり、お父さんでもあります。(詩 25:14 エホバは、ご自分を畏れる人を親しい友とし、契約を知らせる) そのことを忘れず、どんな時もエホバに深い敬意を示しましょう。そうするなら、エホバを嫌な気持ちにさせるような行動を避け、「慎みを持って神と共に歩むこと」ができます。(ミカ 6:8 神はあなたに、何が善いことかを伝えた。エホバがあなたに求めていることは何か。ただ公正を守り(*公平であり)、揺るぎない愛を抱き(*愛して親切に尽くし)、慎みを持って神と共に歩むことである)

エホバはイスラエル人を公平に扱った

10-11. エホバが不公平な方ではないことは、シナイの荒野にいたイスラエル人に対する扱い方からどのように分かりますか。

10 エホバはご自分の天幕にいる人たちを公平に扱います。（ロマ 2:11 神は不公平ではないからです）そのことはシナイの荒野にいたイスラエル人の例から分かります。

11 エホバは、エジプトで奴隷だったイスラエル人を救出した後、幕屋で奉仕するよう祭司たちを任命しました。また、レビ族の人たちに幕屋に関する仕事を割り当てました。でもエホバは、幕屋で奉仕していた人や、その近くに宿営を張っていた人を特別扱いしたりしませんでした。エホバは不公平な方ではありません。

12. エホバはイスラエル国民に対して公平な方でした。それはどんなことから分かりますか。（出エジプト記 40:38）（挿絵も参照）

12 宿営にいたイスラエル人はみんな同じように、エホバとの絆を持つことができました。どんな特別な奉仕をしているかや、幕屋の近くに住んでいるかどうかは関係ありませんでした。例えば、エホバはイスラエル全体が幕屋の上にあった雲の柱や火の柱を見ることができるようにしました。（出エジプト記 40:38 旅の間ずっと、幕屋の上に、昼はエホバの雲があり、夜は火がとどまって、イスラエルの民全てから見えたを読む。）雲が動き始めると、宿営の中で幕屋から一番離れた所にいる人たちでさえ、それを見ることができました。そして荷造りをし、自分たちの天幕を畳み、みんなと一緒に出発することができました。（民 9:15-23 幕屋を組み立てた日、雲が幕屋つまり証しの天幕を覆い、夕方から朝までは火のようなものが幕屋の上にとどまった。16 その後もそうなり、昼には雲が、夜には火のようなものが幕屋を覆った。17 イスラエル人は、雲が天幕から持ち上がるとすぐに出発し、雲がとどまる場所に宿営した。18 エホバの指示で出発し、エホバの指示で宿営した。雲が幕屋の上にとどまっている間は、そのまま宿営していた。19 雲が幕屋の上に何日もとどまる時、イスラエル人はエホバに従い、出発しなかった。20 雲が幕屋の上に数日とどまることがあった。民はエホバの指示で宿営し続け、エホバの指示で出発した。21 雲が夕方から朝までしかとどまらないこともあり、雲が朝に持ち上がると、民は出発した。雲が持ち上がるのが昼でも夜でも、民は出発した。22 日でも1カ月でもそれ以上でも、雲が幕屋の上にとどまっている間は、イスラエル人は宿営し続け、出発しなかった。しかし、雲が持ち上がると、出発した。23 民はエホバの指示で宿営し、エホバの指示で出発した。モーセを通し

て与えられたエホバの指示通りにし、エホバに従った）また、全ての人が出発の合図となる2つの銀のラッパの大きな音を聞くことができました。（民 10:2 あなたのために銀のラッパを2つ作りなさい。銀を鍛造して作り、民を呼び集めるためと宿営を畳むために用いなさい）それで、幕屋からの距離はエホバとの友情の深さを示すものではありませんでした。イスラエル国民の全てがエホバの天幕に招かれていて、エホバが自分たちを導いて保護してくださっていることを感じることができました。今でも、どこに住んでいるかに関わりなく、エホバは私たちを愛し、大切にし、守ってくださいます。

幕屋が宿営の中心にあったことから、エホバが公平な方だと分かる。

（12節を参照。）



エホバは今も公平な方

13. エホバが今も公平な方であることは、どんなことから分かりますか。

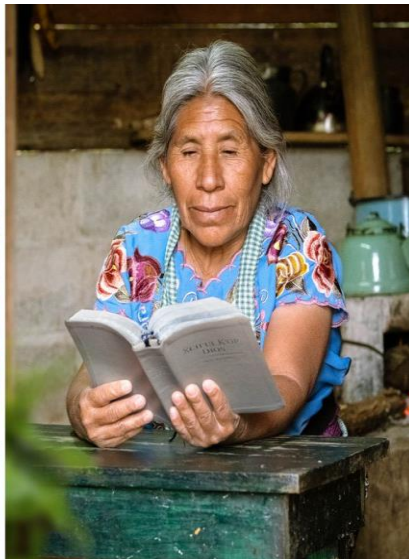
13 兄弟姉妹の中には、エホバの証人の世界本部や支部事務所の近くに住んでいる人がいます。そこで働いている人もいます。そのような人たちは、そこで行われているいろいろな活動に直接関わったり、責任を委ねられている兄弟たちと個人的に知り合ったりする機会があるかもしれません。ほかにも、旅行する奉仕やその他の特別全時間奉仕をしている人たちもいます。でも、みんながそのような状況にいるわけではありません。それで、次のことを忘れないでください。エホバはご自分の天幕の中にいる全ての人を大切にし、愛しています。そして、一人一人のことを優しく気遣ってくれます。（ペテ 5:7 そして、心配事(*不安/悩み)を全て神に委ねましょう。神は優しく気遣ってくださるからです）エホバに仕える人たちはみんな、エホバとの絆を強めるのに必要なことを学ぶことができ、導きや保護を与えられています。

14. ほかにもどんな点から、エホバが公平であることが分かりますか。

14 エホバが公平な方であることは、聖書を世界中の人に読めるようにしていることから分かります。聖書はもともとヘブライ語、アラム語、ギリシャ語の3つの言語で書かれました。では、聖書を原語で読める人の方がエホバと強い絆を持てるということですか。いいえ、そういうわけではありません。（マタ 11:25 その時、イエスは言った。「天地の主である父よ、あなたを大いに賛美します。あなたはこのようなことを賢い知識人たちから隠し、幼い子供たちに啓示されたからです」）

15. エホバが公平な方であるおかげで、どんなことが可能になっていますか。（写真も参照。）

15 高い教育を受けていたり、聖書の原語に関する知識を持っていたりしなくても、エホバの友達になることができます。エホバは、どんな教育を受けているかに関わりなく、世界中の全ての人がエホバの知恵から学べるようにしてくださっています。実際、聖書は何千もの言語に翻訳されているので、世界中の人が聖書を学び、エホバと親しくなる方法を知ることができます。（テモ 2:3:16, 17 聖書全体は神の聖なる力(*)の導きによって書かれたもので、教え、戒め、矯正し、正しいことに基づいて指導するのに役立ちます。17 それにより、神に仕える人は十分な能力を持つことができ、あらゆる良い活動を行う用意が完全に整います）



聖書がたくさんの言語に翻訳されていることから、エホバが公平な方だと分かる。（15節を参照。）

エホバの天幕にとどまる

16. [使徒 10 章 34, 35 節](#)によると、エホバに受け入れられる人にいるにはどうする必要がありますか。

16 エホバの天幕に迎え入れていただけるのは本当に素晴らしいことです。エホバは誰よりも愛情深く親切で、温かくもてなしてくださる方です。不公平ではありません。それで、住んでいる場所、背景、教育、人種や国籍、年齢、性別に関係なく、どんな人でもエホバに受け入れてもらえます。でも、そのためにはエホバの決めた基準に従う必要があります。（[使徒 10:34, 35](#)）そこでペテロは話し始めた。「神が不公平ではないことがよく分かりました。35 神を畏れて正しいことを行う人はどの国の人でも神に受け入れられるのですを読む。）

17. 聖書のどの部分から、エホバの天幕にとどまることについてさらに学べますか。

17 [ダビデ](#)は[詩編 15 編 1 節](#)エホバ、あなたの天幕にとどまる(*でもてなされる)のは誰ですか。あなたの聖なる山に住むのは誰ですかで、「エホバ、あなたの天幕にとどまるのは誰ですか。あなたの聖なる山に住むのは誰ですか」と言いました。そしてエホバに導かれ、続く部分でその答えを書きました。次の記事では、ずっとエホバの友でいるために何をする必要があるか、具体的に考えます。

どんなことを学びましたか

1. エホバが私たちと友達になりたいと思っていることは、どんなことから分かりますか。

- ・ S05 エホバは長い間ずっとご自分の天幕に友を招いてきた。エホバは、その人たちと「平和の契約」を結ぶと約束して、ご自分に仕える人たちと親しくなりたいというエホバの温かい気持ちが分かる。
- ・ S06 私たちは献身した時、いわばエホバの天幕に迎え入れていただいた。エホバとの絆を強めるのに必要なものを豊かに与えられ、また、エホバの天幕に同じように招き入れられた人たちとの友情も楽しんでいる。どんな場所にいるとしてもその天幕に入ることができ、エホバに忠実に仕えているなら、エホバの天幕の中にいることになる。
- ・ S07 すでに亡くなった忠実な人たちも、エホバの記憶の中では生きているので、エホバの天幕にとどまっている。
- ・ S08 エホバの天幕の中にいれば、エホバとの絆を傷つけようとしたり希望を失わせようとしたりするものから守られ、サタンの攻撃によっていつまでも苦しめられるということはない。

2. エホバはご自分の天幕にいる人たちにどんなことを望んでいますか。

- ・ S09 エホバがどんなことを望んでいるかをぜひ知り、できる限りのことをして「全ての点で神に喜ばれ」る人になろうと努める。尊敬すべき神であり、お父さんでもあられるエホバに深い敬意を示し、エホバを嫌な気持ちにさせるような行動を避け、慎みを持って神と共に歩むことを望んでおられる。

3. エホバが公平な方であるおかげで、どんなことが可能になっていますか。

- ・ S13 与えられている責任や機会などが夫々異なり、みんなが同じ状況にいる訳ではないが、エホバはご自分の天幕の中にいる全ての人を大切にし、愛してくれている。そして、一人一人のことを優しく気遣ってくれて、皆がエホバとの絆を強めるのに必要なことを学ぶことができ、導きや保護を与えられている。
- ・ S14-15 聖書を世界中の人に読めるようにして、高い教育を受けていたり、聖書の原語に関する知識を持っていたりしなくても、聖書を学んでエホバの友達になることができるようにしてくださっている。

[32 番の歌](#) エホバの側に立つ